

【近畿コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

都跡小学校 野外活動支援 活動報告書

特別支援教育専修 3 回生 才田優佳

1. 日時：2024 年 9 月 19 日(木) 8:30~20:30
2. 場所：奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者：特別支援教育専修 3 回生 才田 優佳
数学教育専修 2 回生 小田 彪雅
英語教育専修 1 回生 木村 結衣里
理科教育専修 1 回生 下田 愛結

4. 活動内容の概要

奈良市立都跡小学校の野外活動支援に参加した。当日の朝、先生方や児童と一緒にバスに乗り、野外活動センターまで向かった。午前中は、児童がセンターの周辺を散策するオリエンテーリングの通過点に立ち、児童を見守った。午後からは野外炊飯とキャンプファイヤーの支援をした。野外炊飯では、主に竈での火の管理とカレーのルーを作る際の準備と片付けのサポートをした。児童たちと作ったカレーを食べた後に、キャンプファイヤーをした。キャンプファイヤーでは主にファイヤーキーパーと児童のスタントの盛り上げ役をした。

初めて参加する学生もいたが、周囲の状況を見て行動して主体的に行動することができた。児童や先生方ともコミュニケーションを取りながら取り組むことができた。

5. 参加学生の学び・感想

今回の野外活動支援で学んだことは、2つある。1つ目は、野外活動支援当日までに小学校と初めて打ち合わせをした。その際にこれまで先輩方が裏で進めてくださっていたことや先生方の努力に気付くことができた。2つ目は、児童のスタントについてである。1班の持ち時間が10分と少し長く、子どもたちは疲れで集中力が切れないか心配であった。しかし1班ずつ登場する際に班ごとに考えたオリジナルの掛け声をしたり、練習を組み込んだりするなどして、ファイヤーが円滑に進んでいた。子どもたちが一体となって団結し、全力で取り組んでいた姿に感動した。

(特別支援教育専修 3 回生 才田 優佳)

私が今回の野外活動支援で学んだことは、燃え進んでも崩れにくい薪の組み方だ。ユネスコクラブがキャンプファイヤーの薪を組むと、必ずと言っていいほど六角形で組む。今回のキャンプファイヤーでは、下の方はクヌギの木で、上の方はスギの木で組むことを教わった。そうすることによって、上の方は燃えやすく、下の方は燃えても形を維持することができていた。これを今後の野外活動にも持ち帰って活かそうと思う。

(数学教育専修 2 回生 小田彪雅)

今回の野外活動支援を通して、子どもは自分が思っているよりも協力できるということを学んだ。1日通しての野外活動支援の中で、わからないことは、子ども同士で声を掛け合い、「協力」している姿がよく見られた。その協力を壊さず、場を盛り上げたり、危険なことから子供たちを守ったりするためには、どのように声掛けをするべきなのか、今回のことを踏まえ、今後さらに身につけていきたいと思った。

(英語教育専修 1 回生 木村結衣里)

私は今回の野外活動支援が初めてであり、子供たちの活動のサポートを行う中で多くのことを学んだ。特に、話し方によって子供たちの集中力が変わることは大きな学びとなった。先生方がどれほど話す時の声の抑揚や速さに気を遣っているかがよく分かった。また、朝のオリエンテーリングから夜のキャンプファイヤーが終わるまでの間、子供たちと何度も話す中で最初よりも上手く関わることができるようになったと感じた。この経験を次に活かしていきたいと思う。

(理科教育専修 1回生 下田愛結)



キャンプファイヤー点火前
の木組み



キャンプファイヤー
点火中の様子



キャンプファイヤー後の
焚き火